

大規模災害に備えて

防災ヘリコプター運用開始（画像伝送装置搭載）

Point

沖縄における危機管理体制の充実を図るため、
沖縄総合事務局開発建設部に防災ヘリコプターを導入し、
平成18年4月から運用開始しました。



防災ヘリコプターの配備

防災ヘリコプターの配備により、地震や豪雨などの災害時に沖縄県内の公共土木の被害状況や一般被害状況の画像情報収集を迅速に行い、適切な応急復旧体制の確立が可能となります。災害対策本部が設置される内閣危機管理センター（首相官邸）まで現地の情報をリアルタイムで配信することが可能となり、迅速な応援体制の確保など危機管理体制の強化が図られます。

今回の防災ヘリコプターは民間機を借り上げし、専用機として試験運用となります。

ヘリポート

沖縄管内に約14箇所を確保。ただし、補給基地は中日本航空（株）沖縄運航所（糸満市）及び那覇空港の2箇所となります。

また、当該ヘリコプターの常駐基地は、中日本航空（株）沖縄運航所（糸満市）となります。

ヘリコプターからの空撮



！ 沖縄総合事務局に配備する防災ヘリコプター

機体型式	ユーロコプター式AS350B3型JA022N
最大離陸重量	2250kg
ローター直径	10.69m
全長	10.93m
座席数（操縦士席含む）	5席（ヘリテレ通信装置搭載のため）
高速巡航速度	約210km/h（約120kts）
エンジン最大連続出力	728shp×1
航続距離	420km
最大航続時間	約2時間

上記性能はヘリテレ通信装置を設置したときの参考数値です。



可搬型ヘリコプター画像伝送装置

ヘリコプター画像伝送システム

ヘリコプターにより災害現場上空から撮影した映像を、無線中継所を介し、内閣府、国土交通省、沖縄総合事務局開発建設部、関係機関、関係自治体などに配信します。

